

紙芝居（保科百助・塩沢堰）

お話バスケットの皆さん

実施日：令和3年6月8日（火）



第5回目は“お話バスケット”の皆さんを講師に招き、創作紙芝居を上演していただいた。「堰をひらいた六川長三郎勝家」では、立科町の農業を支える用水を拓いた六川長三郎の偉業を、わかりやすく見せていただいた。「石を集めた五無齋先生」では、蓼科高校の初代校長である保科百助先生の生い立ちを学んだ。五無齋先生は石の研究に力を注いでいたことや、『たくさんの子供たちに教育を』という考えのもと活動し、その行動により、貧しい子供たちにも学ぶ場を提供していたことを知った。どちらも蓼科学を学ぶ上で欠かすことのできない内容で、紙芝居に集中する生徒たちの姿が見られた。

【生徒の授業日誌より】

・この蓼科にこれだけ水田があるのも勝家さんのおかげと知って、とても感心しました。百助先生は小さいころからしっかり者で、とても濃い人生を送っていると思った。いろんな反対もありながら、自分の人生を歩んでいった。

・音楽などの演出をして、よりリアルに物語を読んでいてとてもおもしろかった。100年は生きることのできなかつた百助さんだけど、100年分に匹敵する活躍をしたと思う。

・50kmも離れた蓼科山の湧き水を手作業で6年かけて引いてきたことが凄いなと思った。水引きの道筋に光（ちょうちん）を使おうと思いついたのにも驚いた。百姓の暮らしのために田んぼを作ろうと考えられることも凄いと思った。

父親から、これからは勉強が大切になると言われ、教師になったと聞いて凄いなと思った。自由な教育が良いという考え方がとてもいいと思った。石の標本を作るために命をかけて険しい山で石集めをして、凄いと思った。県外にも五無斎先生の標本が広まっていた良いなと思った。

・勝家の努力がすごい。諦めない精神。結果水を引けてすごい。争いなどもルールを作っておさめていてすごい。

・いろいろな被害にあって水路がふさがったりしたけど、あきらめずに6年という長い期間をかけて蓼科山から水路をひいたのはすごいと思った。五無斎先生は蓼科高校の校長先生をしていたことだけ知っていたので、他にいろいろなことをしていたのを知ることができたし、すごいと思った。

・蓼科山に行ったことがあるので、そこから立科町まで水を引いたと思うととても大変だなと思いました。百助さんは学校の先生になり、貧しい人でも学校に行けるようにした。蓼科高校の初代校長先生が生徒のことをこんなに思っていたとは知りませんでした。

・音楽があり、感情を込めて読んでいて良かったです。知らないことが知れました。六川さんは何年もかけてあきらめず水を引いて、努力家だと思いました。昔の人々の努力のおかげで今の町があるんだと思いました。